

第2回 山野草を使った モテ料理



超太 (ちょうだい)

自然が大好きな 27 歳。なかなか彼女ができず、悩んでいる。今年の目標は、彼女を作ること。



ミスターK

自称空前の色男であるという、木の妖精。長年の知識と経験で多くの非モテ男たちを救ってきたという。

前回までのあらすじ

あなたの恋をとことん応援する環境教育スキル講座。彼女できない系男子代表・超太の前に突如現れた木の妖精・ミスターK。ミスターKのアドバイスに従い、初デートを成功させた超太だったが、今回はいかに!?



超太 (ちょうだい) そうだな…。普段は炒め物しか作らないけど、フキノトウの天ぷらを作



ミスターK (今回はお互いの友達も誘って一緒にピクニックか。最近暖かくなってきた、すっかり春だな。俺にもそろそろ春が来れば良いのにな…。でも、俺にはミスターKが付いている。見た目は怪しいが、あいつの言うことを聞いていけば、俺にもきっと春が来るはずだ。)



超太 (ちょうだい) なになに、次はピクニックだって? そして、1人1品の持ち寄りじゃと!? そうだな…。春ということでは、山野草を使った料理はどうじゃ? 近所の河川敷に行けば、ツクシやノビルなどがタダで手に入るぞ! ピクニックにフキノトウの天ぷらを作っているってどうじゃ? おいしいぞー。



【ピクニックデート後】

超太 (ちょうだい) どうだった? フキノトウの天ぷらは好評だったか?

ミスターK (彼女が優しいから美味しそうに食べてくれたよ。でも、親友の鴨川君にこっそり言われたよ。超太が作ってきた天ぷらが苦かったって。俺の



超太 (ちょうだい) 作って、彼女に家庭的な一面を見せると好感度は倍増間違いなしだ。よし、その話に乗った。ありがとう、ミスターK! 恩にやるぜ!!

超太 (ちょうだい) おい、待て! まだ美味しいフキノトウの見分け方の話もしていないのに…。まったく、どうしようもない奴だな。しかし、失敗から学ぶこともある。今回は親心から口出しせずに見守るとするか。



超太 (ちょうだい) 名前は大太ちゃん。だから、名前の通り大きなフキノトウだけを選んだのにな…。

超太 (ちょうだい) ほれほれ、言わんこっちゃない。私の話を最後まで聞かないからじゃ。成長して大きくなったフキノトウは苦みが強いじゃ。だから、小さくて、つばみが硬く閉じているものを選ぶのが正解だったのじゃ。



超太 (ちょうだい) そうだったのか。これからは最後まで話を聞くようにするよ。だから、彼女の気持ちを引き戻すための環境教育スキルをもっと教えてよ、ミスターK!



超太 (ちょうだい) 分かった、分かった。恋愛は駆け引きじゃ。次回のデートは一緒に成功させようじゃないか。

フキノトウ



ツクシ



ノビル

